

FAS住まい新聞

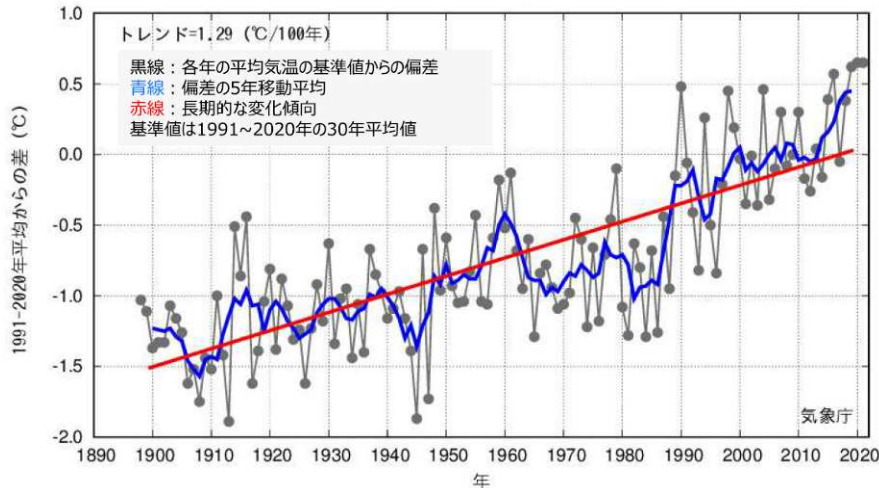
◇ 日本の気候変化 ◇

季節は春めいてきました。今冬は特に厳しかっただけに、春の訪れを強く感じる人も多いことでしょう。夏は暑く、冬は寒い、そして春秋は過ごしやすい、四季のあるのが日本の気候と言われてきました。しかし、近年は少し変化してきているように思います。

夏は極端に暑く、春は暖冬傾向。そして春秋の過ごしやすい時期が短くなっているように思えます。

実際の気象データで見ても、温暖化傾向が一目瞭然となっています。

日本の年平均気温偏差



出典) 気象庁報道発表資料「2021年(令和3年)の日本の年平均気温(速報)」令和3年12月22日より
(http://www.jma.go.jp/jma/press/2112/22a/2021matome_besshi1-1.pdf)

気候変動の大きな原因は、二酸化炭素(CO2)をはじめとする温室効果ガスだと言われています。世界中でこの温室効果ガスの削減が声高に語られていますが、今から江戸時代の生活に戻ることも出来ません。そこで、私たち一人ひとりが出来る温室効果ガスの削減に大きく貢献できるのが、家庭から排出される温室効果ガスの削減となります。

◇ 住宅の高性能化 ◇

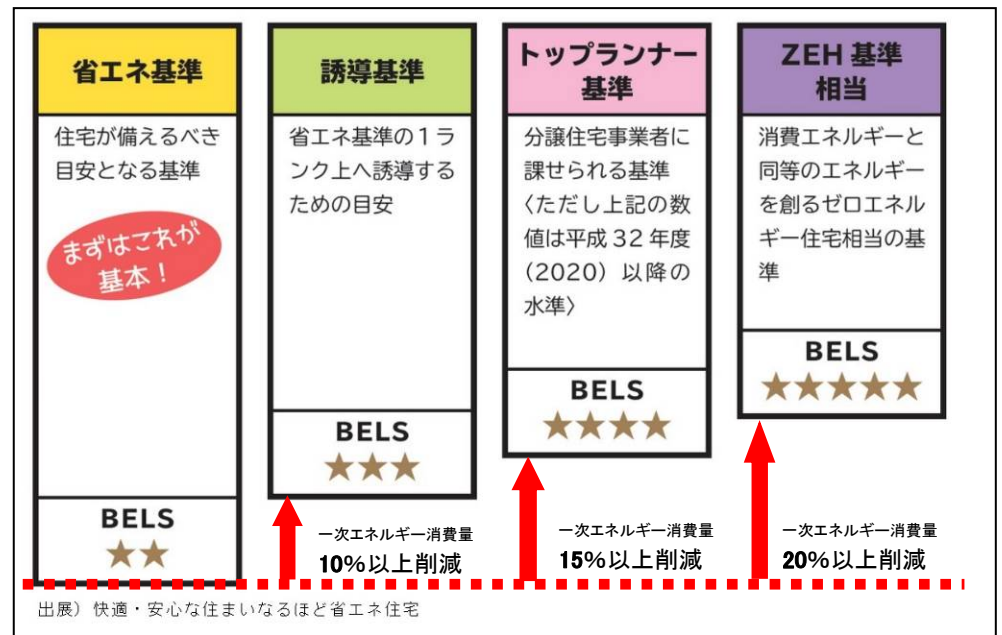
温室効果ガスの削減が言われはじめてから、車や家電の買い替えの際には、

省エネ性能を重視される方も多いと思いますが、住宅の場合はどうでしょうか。住宅には、「BELS(ベルス)」という省エネ性能が分かる制度があります。

住宅の省エネ基準は、一般的な家電や車とは異なり、外皮性能[屋根(天井)・外壁・床(基礎)・窓の断熱性能]+一次エネルギー消費量[暖房設備、冷房設備、機械換気設備、照明設備、給湯設備など住宅に使うエネルギーの消費量]となります。住宅の場合、家の中で様々な機器を利用することから、ハードとソフトの両方を合わせての省エネ評価となります。

住宅を購入する際に、「省エネ基準をクリアしているので省エネ住宅です」と言われることもあります。

しかし、省エネ基準は、このBELSの評価で「星2」となり、基本基準にしかありません。最高級である「星5」から比べると計算上一次エネルギー消費量が20%以上増加する住宅になります。



省エネ性能が良い家は、必然的に光熱費の負担も軽くなります。

電気代やガス代などの値上げが続く昨今です。世界情勢の不安もあり、まだまだ原油やガスの高騰が予想されています。建てる際の費用負担は大きくなりますが、長いスパンで見た時には省エネ住宅は家計にも優しい住宅になります。家を建てるということは、今も昔も一生に一度の大きな買い物です。

家づくりを計画の際は、一度立ち止まり、外観や内観、キッチンなどだけでなく、住宅の省エネ性能にも目を向けてみてはいかがでしょうか。

(著:東京事務所 中島 幸)